

---

# 神々との決闘

皆川リュウタ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

神々との決闘

### 【Nコード】

N2764Z

### 【作者名】

皆川リュウタ

### 【あらすじ】

この世界には人間が居て、宝玉があり、神々が居る  
神に特別な力をもらった少年、悠斗 と 涼 は  
同じ神でも世界侵略を望む神々と決闘を挑む！

## 第1話

「・・・え・・・ねえ・・・ねえってば」

誰かの声が聞こえる

「いい加減起きろ！」

俺の後頭部にチョップが直撃する

「つてえええええ！！！！」

あまりの痛さに思わず立ち上がる

するとそこには黒髪ロングの少女が立っていた

ちなみに、ここは学校だ

俺は学校の1時間目は寝ていた

「いい加減、起きなさいよ、悠斗」

「普通チョップで起こすか？」

こいつは俺の幼馴染の優衣だ

「もう帰る時間よ」

刹那、時がとまる

「ええええええ！」

俺はずっと1時間目からずっと寝ていたらしい

「私は部活のミーティングがあるから先に帰ってて」

「分かった」

そうして、今日の学校生活が終わった

## 第1話（後書き）

この小説は学生が書いており、次話投稿が不定期となっております  
ご了承ください

できるだけ2日に1話を目指します

なので、この小説をよろしく願います

## 第2話

「ふわあわ」

俺はずっと1時間目から寝てたらしい

「眠いな」

そう呟きながら一步一步家に近づく

家が正面に見えて後、100mくらいに迫った

その時！

キキーーーー！

後ろから大型トラックがブレーキをかけながらつつこんでくる

ガシャーーン

トラックと俺は事故った

そして俺は死んだ

はずだった

身体に痛みが走る

しかし血は出ていない

腕を動かしてみた

やはり動いた

しかし、折れているのか、激痛が走る

俺は叫んだ

「助……けて……誰……か」

しかし、声はあまりでなかった

喉をやられていたらしい

「苦しそうね」

どこからか女の声がした

「だ……れ……だ」

「助けてほしい？」

「た・す・け・て」

すると、あたり一面が光で包まれた

「なんだ？ここは

って、声が出る！！！」

不思議なことに喉が治ってた

いや、喉だけではなく、腕も、足も、身体全体の怪我が治ってた

「なんかわけわかんねえけど・・・治った~~~~！！」

「！」

「クスクス、うれしそうね」

背後からさっきの女の声が聞こえた

振り返ると同じ年くらいの少女が立っていた

「誰だ？」

「私の名前は・・・」

## 第2話（後書き）

なんとか書けました><  
いろいろ忙しいので投稿が遅れるかもしれませんが  
書けるときは全力で書くので  
よろしく願います

### 第3話

「私の名前は マリーシャ よ」

彼女をよく見ると

金色の髪に、マゼンタ色の唇、雪のように白い肌、すべてを見透かすような

蒼い眼、とても人間とは思えない美しさだ。

「・・・あの、外国人？」

「そこらへんは、後で話すわ、着いてきて」

そついうと彼女はスタスタと歩いて行った

「ちよ、ちよい待てって」

俺はそう言ったが、彼女は華麗にスルーした

「ああ、もう、わかったよ」

俺はそう言ってしぶしぶ着いて行った

↳数10分後↳

「な、なんだよこれ！」

そこには、バカでかい豪邸が広がっていた

「さあ、入って」

彼女は、そう言って中に入って行った

「ここって、お前の家？」

彼女は無視して行った

俺も少し戸惑いながら中に入った

「お、おじやましまゝす」

靴箱には1人分の靴しか入ってなかった

「来て」

俺は案内されるがままに行った

「そこに座って」

彼女が指さした先にはソファがあった

「分かった」

女の子の家には優衣ゆい以外の家に行ったことがなかったので

かなり緊張していた

「まあ、なにかから説明すればいいのかな？」

みるといつの間にか、マリーシャも座っていた

「まず、お前の事について教えてくれ」

「そうね、わかったわ、私は……」

### 第3話（後書き）

なんとか書くことができました

月曜は塾があるんであんま書けないんですよ

その分、授業中も内容を考えてノートに下書きしたり

火曜日と木曜日にめちゃくちゃ書いたり・・・

まあいろいろと頑張ってるわけですよ

でも、あんまアクセス数が増えないのはなぜだろう

しかし、くじけることなく頑張ります！

皆さん、「神々の決闘」をよろしくお願いします

## 第4話

「そうね、わかったわ、私は・・・神よ」

俺は理解ができなかった

「は？どういうこと？」

「だから、神よ」

（神って天にいる神様なのか。）

「神って、天にいるあの神様か？」

「まあ、そう思ってもらって構わないわ」

（んだよそれ。曖昧あいまいすぎだろ）

悠斗は頭をポリポリと搔かく

その時悠斗は、窓から見える風景に目を疑った

（な！なんで木が黄色なんだよ！）

そう、木が黄色かったのだ

正確には葉が黄色で幹は赤かった。

木だけではなくその木になっている実も異常おかしかったのだ

実が黒かった

「なあ、マリーシャ、もう1つ聞いてもいいか？」

「ええ、いいわよ、何でも聞いて」

「ここは、その・前居た世界とは違うのか？」

俺は思った疑問を口にした

「ええ、違うわ、ここは天界てんかいよ」

天界なんて世界、聞いたこともなかった

「それはどう違うんだ？」

「あなたさつき自分で言ったじゃない  
神は天に住むって」

「・・・つまりあれか、俺は天に召されたのか」

まあ、俺は大型トラックに轢ひかれたのだ

死ぬのが普通だ

しかし、俺は轢かれても血が出てなかった

一体なにが起きているんだ？

「違うわ、あなたは連れてこられただけ  
死んではいないわ」

「え!？」

そんなはずはない

俺は大型トラック轢かれたのだ

死なないはずはない

「俺は大型トラックに……………」

悠斗がそう言い終わる前に彼女が話し始めた

「轢かれる前に私が死なない魔法をかけていたら？」

「そ、そんなバカな 魔法なんて……………」

「私は神よ、そんなことくらい容易たやすいわ」

「……………」

悠斗は何も言えなくなった

「じゃあ俺はなんでここに連れてこられたんだ？」

「それは……………」

## 第4話（後書き）

ふう、塾に行く前にやっと4話書き終わりました  
とても指が痛いですwww

2日に1話では面白くないと思いますので  
できるだけ、1日1話を目指したいです

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2764z/>

---

神々との決闘

2011年12月14日18時56分発行